

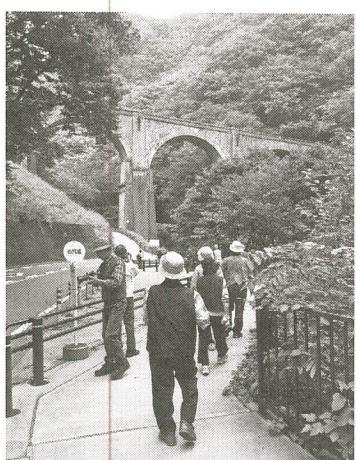
秋の上州路－旧中山道を行く 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」をたずねる

世界遺産登録（2014・6）された富岡製糸場の見学をメインとし、**A班**の「廃線となつた信越線の『アプトの道』を歩く」と、**B班**の「旧中山道の碓氷峠から横川駅まで歩く」それぞれの旅が、23人の参加で実施された。旅行中は好天に恵まれ、高齢者の旅とは思えない元気と学習意欲に裏打ちされ、行く先々で人の温かさに接することができた旅となつた。

新潟駅南口バスター
ミナルをときわ観光の
バスで7時過ぎに出発、

いつも通り軽妙で博識な木村会長の「旅の解説」を聞きながら、高速道を順調に走る。12時前に松井田妙義IC

を降りて18号線に入る。「おぎのや」で昼食用の『峠の釜めし』を買
い込み、バスの中で銘々昼食をとり、旧信
越線のめがね橋（碓氷
第三橋梁）へ。ここで集合写真を撮り、いつ
たんB班の出発点である長野県軽井沢町の熊
野神社まで進む。ここでB班の7人を降ろす
と、残る15人は「アプトの道」を歩くA班の
出発点となる熊ノ平Pにバスで戻る。



碓氷第3橋梁（通称・めがね橋）

この旅行記は、**A班**、**B班**、第2日と分けて3人に書いてもらつたものを繋いで旅行記としたものである。
(事務局内山)

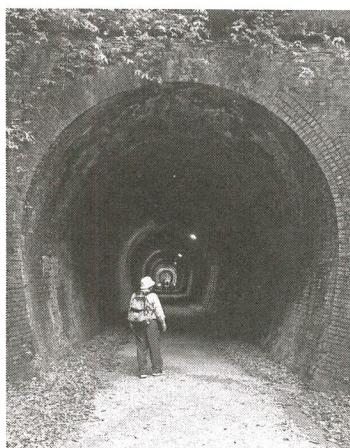
A班 アプトの道を歩く

日本武尊が妃の弟橘媛を偲んで「吾妻はや」と嘆かれた碓氷峠の熊野神社でBコースの7人と別れ、バスはとつて返して見晴し台を過ぎ、軽井沢の賑わいを横目に熊ノ平Pへと向かう。新高退の旅ではいつもお馴染みのベテランドライバー西沢さんをバスに残していざ歩かむ。

60数年前、私と同年輩の若者達が、青雲の志を胸に抱き、このアプトにガタゴト揺られて東京を目指した時も見たであろう景色を逆コースに眺めながら暫し感慨に浸る。屹立した妙義の山容が素晴らしい。5~3号トンネルをくぐると眼下に青藍の碓氷湖、2~1号

Aコース14名の隊長は石野さん、兎角バラツキ易い一行への気配りはさぞ大変だつたでしょうね。コースはアプトの線路跡を割栗石とアスファルトで舗装したユルーイ下りだ。これなら俺だつて息切れしないでいくらでも歩ける。10~6号トンネルを抜け、先程下から見上げた高さ91m・赤煉瓦作りのめがね橋からの眺望を楽しむ。

B班 旧中山道を歩く



アプトの道（第3～第5隧道）

近くに代々松井田諏訪氏の家臣

で村の名主でもあつた中島氏の五料の茶屋本陣「お西」と「お東」がある。ともに近郷の行政府である。旅する大名や公卿を接遇した。明治天皇も巡幸の途次休憩された由、上・中・下段の間の構えがいかめしい。新島襄旧宅は割愛し、バスで「かんばの宿」へ急いだ。

（飯塚良彦）

想像がつく。この困難に挑戦することになつたのは、69歳から82歳の7人である。



「旧中山道」と「アプトの道」関係図

碓氷峠は標高1188mもあり、ここを起点として横川駅に向かう。旧中山道の道は、標識が良くあつて説明が丁寧に記されている。険しい山道ではあるが整備は行き届いている。入口に安政遠足の標識があるが、安政2年心身鍛錬を目



旧中山道コース出発前にパチリ

的とした駆け足をしていたらしい。今も毎年5月の第2日曜日に安中城址から峠の熊野神社まで約29kmのマラソン大会が実施されている。従つて険しいことは険しいが走るわけではないので何となる気がする。2km過ぎる頃、中山茶屋跡に出る。更に1・5kmほど進むと栗が原に出る。中山道の分岐地点。更に進むと座頭ころがしの標識があり、岩や小石がごろごろしている急坂が続く。途中あづまやで休息を取り、おにぎりやおやつを食べる。刎石坂あたりは、岩石が道にごろごろしている。やはり足や

膝に負担がかかりきつくなつてきているのが分かるので、お互いに声を掛け合いながら前に進む。ようやく国道18号線に出て先の見通しがついて来た。

Aグループの動向を知るために携帯を入れると、途中で随分時間を使つてしまい、どうやら後半の見学はカットせざるを得なくなつていいようである。我々の最終目的地、横川駅にバスの迎えも出来そうもないでの、自力で宿までたどり着かなくてはならない決断がついた。予定では横川駅発の電車は4時半である。残り時間は少なくなつてきている。国道から再び旧中山道に出で、峠の湯から遊歩道アプトの道を必死に歩いた。旧丸山変電所は、かつて碓氷峠を行き来する列車に電力を供給するため明治44年に建てられたもので国の重要文化財に指定されている。残り1kmになり、この調子でいく



世界遺産の富岡製糸場にて (藤田是さん撮影)

Aグループの動向を知るために携帯を入れると、途中で随分時間を使つてしまい、どうやら後半の見学はカットせざるを得なくなつていいようである。我々の最終目的地、横川駅にバスの迎えも出来そうもないでの、自力で宿までたどり着かなくてはならない決断がついた。予定では横川駅発の電車は4時半である。残り時間は少なくなつてきている。国道から再び旧中山道に出で、峠の湯から遊歩道アプトの道を必死に歩いた。旧丸山変電所は、かつて碓氷峠を行き来する列車に電力を供給するため明治44年に建てられたもので国の重要文化財に指定されている。残り1kmになり、この調子でいく

と間に合いそうもないが、最後は走つてようやく電車に滑り込んだ。磯部駅で降り、かんぽの宿に辿り着いた時は、さすがにほつとした。80代の3人は恐るべき体力の持ち主である。

(國分眞三)

それぞれ。夕食は椅子スタイルで準備してもらい、銘々心ゆくまで今日の反省と明日の期待に時間が流れます。

第2日 富岡製糸場などの見学



多胡碑

8時過ぎに宿を出発し、まずは上州一宮の貫前神社に向かう。旅の無事を願い記念写真を撮影後、富岡製糸場へ。数日前に届いた「大人の休日クラブ」が、富岡製糸場の特集でとてもタイミングが良かつた。

世界遺産に登録されたからか、多くの人でビックリ。私たちと同じような人數の団体も多く見られた。団体に説明をするボランティアガイドの話に聞き入る個人の入場者も見られた。若い女性が苦笑しながら「この人たちガイドを質問攻めにしている!」と言つて、いたのを聞いて、「さすがに元教員、この年になつても学習意欲がすごい」と思つた。

最後の見学先となつた多胡碑を出発したのが16・30過ぎ。途中、参加者から旅の感想を一言ずつ話してもらひながら新潟に向かつた。「これからも参加したい」との言葉を事務局としては、研修旅行に対する強い支持と受け取つた。旅行の質を考えながらこれからも企画をしていきたい。新潟到着は予定より少し早い19時、疲れも感じていないのか、それぞれが足取り強く帰途についた。

い」と思った。

ここでの見学を終えると、道の駅甘楽で各自昼食を取る。仲間とのビールや歓談は楽しく、散策するつもりが時間が足りなくなつた。午後からは樂山園の見学。織田家ゆかりの大名庭園とあるが、当時のものはほとんどなく、芝生で疲れた体を横にしてゆっくり時間を過ごした。

この旅行の最後の見学は、国の特別史跡に指定されていて、那須国造碑、多賀城碑と並ぶ日本三大古碑の一つである多胡碑の見学であつた。思い返すと、多くの楽しい事や珍しい事があつたが、いつも多くの方々の協力に感謝感謝の旅であつた。

(大森豊樹)

魚沼支部
廣井 熱 (08)

私が教員としてスタートしたのは1974年でした。今は廃校になつた佐渡農業（この校名も無くなつてしまつた）松ヶ崎分校でした。その年に組合に入り、翌年佐渡支部の執行委員をしたことや本部執行委員を5年間つとめたこと、高教組の原発専門委員として、反原発の取り組み（福島原発事故後、前橋でも数回学習会や講演会を開きました）をしたことなど、組合の仲間とともに、教員として成長してきました。

十日町高校の定時制に勤務して、いたとき長中期整備計画が出され、その中で、夜間の定時制は十日町高校を含め全廃と発表されました。今定時制は小中学校在学中不登校の生徒が学ぶ大切な場所です。そんな大切な場所が無くなる、何とか守らなくてはならないと考え、南魚沼で行われた説明会に、振興

この人はいま

「県外在住会員の今」

会長（定時制のPTA
会長）と参加し、振興

会長から定時制の必要性を訴えてもらいました。学校内では守る会を作り、事務局として、

署名活動、県、市議への働きかけ、守る会への通信、守る会の会議の会場確保や準備など守る会の活動の下支えをしました。その結果、全県下で学年制の夜間定時制は十日町高校だけ、現在でも守る会のメンバーと年に1度くらい交流があります。ともかく大切な場所を守ることが出来たことは誇りに思っています。

現在私は群馬県の前橋市に住んでいますが、教員生活の最後11年間の経験から、不登校生と関わることが出来ないかと考えています。縁あって、NPO法人カウンセリング&コミュニケーションミュー（CCM）に所属し、不登校生と学校をつなぐオープンアンドサポート（ODS）のメンバーになりました。ODSは不登校生の家庭訪問を中心に、教室には入れない生徒と話しをしたり勉強をしたり、毎日生徒とともに過ごす仕事です。ODSは前橋市より委託され、おこなつている事業で、前

2014年12月1日

新潟高教組

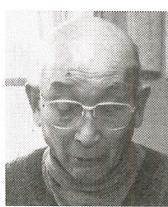
(昭和38年1月9日)
(第三種郵便物認可)

(毎月1回15日発行)

橋市内の全中学校（21校）に週24時間で配置されています。全国で市内中学校に全校配置している自治体は前橋市のみで注目される事業です。

前橋に来てから、新潟が遠くなりました。中々出かけることはありませんが、新教組の教研の共同研究者として、年2回新潟に出かけます。もし見かけることがあつたら声をかけてください。

皆さんお元気で、また会えることを楽しみにしています。



魚沼支部
佐々木昭一（87）
昭和63年3月に

県立長岡商業高校を退職し、小千谷から伊豆シャボテン公園（伊東市）近くの大室高原に移住してきました。ここは、家族旅行で伊豆高原を訪れた際、気に入つて購入した所です。2人の娘がそれぞれ横浜と草加に住んでおり、老後は子供たちと遠くなっているところです。退職後まもなく家を建て、移り住んで早27年になります。

移住翌年の平成元年から進んで町会の役員になり、福利厚生部長、

文化部長などを歴任し充実した日々を過ごして参りました。縁もゆかりもなく、見知らぬ人ばかりの地で、積極的に役員を引き受けたことが、「住めば都」となり今があると思っています。

7年前にも膜下出血で倒れたときには、教え子たちがはるばる長岡からバスを仕立てて、見舞いに駆けつけてくれました。このことは生涯忘ることはできません。

最後になりましたが、新高退のますますの発展を念じています。



新潟支部
前田啓一（13）

新会員からのたより

退職して見える」と

「再雇用」として、昨年とあまり変わらず学校に勤めています。こんなことは開闢以来の出来事。

「60歳、定年で何をしようかな？」なんて時代は昔の話です。

持ち時数も分掌も、その上部活動までも、全くどころか、労働強化かなと思うくらいです。私は本人

の希望しないテニス部の顧問。同じ再任用の同僚は野球部！定年後の「悠々自適、晴耕雨読」は死語になってしまいます。もつとも、知人なども「もう真っ平」と、一切教職から手を引いた人もいます。その再任用も「1年限り」と思っていたら、「再任用の再任用の調査」が先日来ました。内容は、新採用の初任研の授業補充のみで、しかも短時間の制度は無く、フルタイムのみ。その上、「採用は無いかもしれない」なんて、我々を馬鹿にした話。現場の雇用や年金・賃金状況は下降の一途を辿っています。つくづく諸先輩は恵まれていたんだと思います。

学校現場は、毎日スマホの奴隸化した生徒と、細かいクレームに終始する哲学なきゾンビー達（誰のことかはお分かりかと思うが）との鬭いです。「リスクペクト」の無くなつた世界では、もう教育は成り立たなくなつてきてります。

そんな中でも、なんとか自分の理想を少しでも実現しようと日々励んでいます。生徒には、毎日毎日が取り返しのつかない貴重なもので、この次はありません。

まず自分で給料2カ月を出資してから」という「生協」です。老後の社会貢献のつもりで始めました。地域と福祉のために尽力したいと思っています。この生協に関心のある方はご連絡ください。

人間は年をとると、昔の話や持論というか頑なな考えにこだわる傾向がありますが、私は昔の事よりも、今の事、これから的事にいつも気持ちが向かっています。新しい感動を求めている方がおられたら、たくさんのお勧めがありま